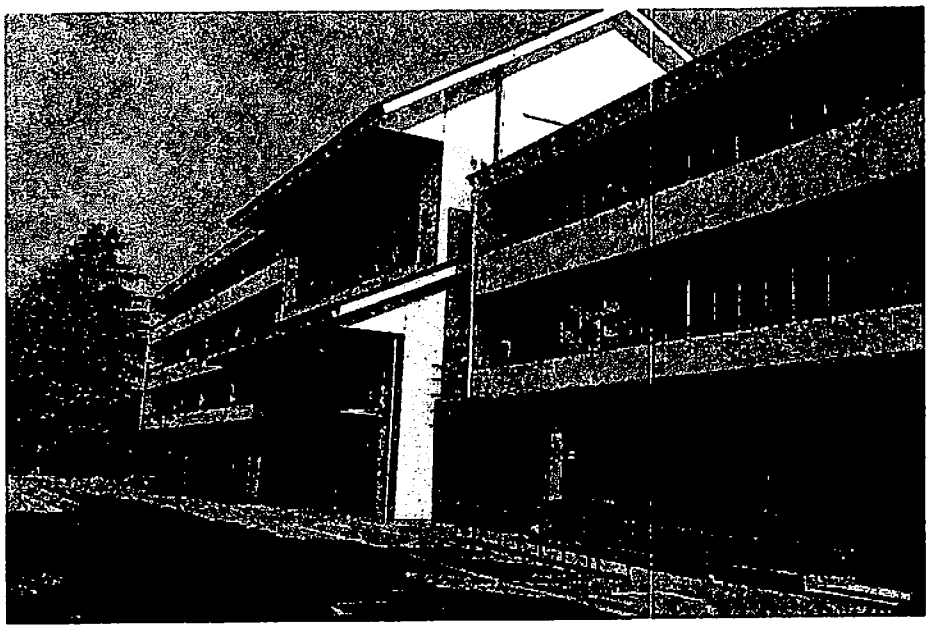
平成30年8月22日（水）

第６８次　印旛地区教育研究集会

進路指導部会　提案資料

研究主題

主体的に進路決定するための進路指導のあり方



佐倉市立佐倉中学校

進路指導部

深町真

1 研究主題

「主体的に進路決定するための進路指導のあり方」

2 研究主題について

（1）生徒の実態

本校は佐倉市の中心部に位置し、１年生５学級、２年生５学級、３年生５学級、特別支援３学級、全校生徒数４９１名の中規模校である。学区は広範囲にわたり、佐倉小、根郷小、和田小、内郷小、佐倉東小、寺崎小と６つの小学校から生徒が進学している。中には電車通学の生徒もいる。それぞれの学区の特色があるが、入学後は生徒同士仲良く、どのクラスも良い雰囲気で学校生活に取り組んでいる。学習に対する姿勢が非常に前向きであり、学校行事に対しても、「生徒中心」でより良いものを作っていこうという意識が根付いている。佐倉中の三つの柱である、挨拶・歌声・清掃軸に、生徒・教師が一丸となって学校生活を送っている。

（2）学校教育目標

本校の学校教育目標は次の通りである。

校訓「好学進取」のもと、心豊かで、進んで学び、行動するたくましい生徒の育成

□めざす生徒像・学校像・教師像

＜めざす生徒像＞

○自他ともに命を大切にし、他を思いやる心を持つ生徒

○進んで学び、進路に向けて努力する生徒

○奉仕の心を持って進んで働く生徒

○礼儀正しく、きまりやマナーを守る生徒

○健康・体力づくりに励む生徒

＜めざす学校像＞

○明るく秩序ある生活のできる学校

○人間性豊かな生徒の育成をめざす学校

○自律と自立の精神を育てる学校

○地域社会に学び、地域社会に貢献できる学校

○生徒の健康、安全を何よりも優先する学校

＜めざす教師像＞

○常に教育目標を意識して、その達成に向け努力する教師

○生徒の「こころ」を育てる教師

○教育のプロとして自覚し自己研鑽に励む教師

○一歩先を見つめ、一歩先を目指し行動する教師

○高い倫理観と社会性を身に付け、生徒・保護者から信頼される教師

（3）学校経営目標

校訓「好学進取」のもと、人間尊重の精神に徹し、社会を生き抜く力を身につけ、未来を切り拓く教育の推進に努める。「生きる力」を身につけた生徒の育成を目指し、教育計画並びに教育環境を整備し、特色ある教育活動を展開する。

＜生きる力＞とは

基礎・基本を確実に身に付け、自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動していく力や、豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などである。

（4）経営の基本方針

1　人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」を育む
2　学校は学びの場であり、様々な教育活動を通して学びの大切さを感じさせる
3　生徒が自己実現を図り、充実した楽しい学校生活を実感できる学校づくりに努める。
4　基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力、判断力、表現力等の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う
5　家庭や地域社会との連携を進め、開かれた学校作りに努める
6　学区小学校との連携を進め、一貫した指導を意識した指導体制づくりに努める
7　目標申告・業績評価や学校評価等を活用して、組織の活性化に努める
8　教職員として積極的に研修に励み、指導力の向上に努める
9　施設や設備等の適切な管理と効果的な運用により、教育環境の向上に努める
10　千葉県教育委員会指定「印旛教育センター」の役割を果たすよう、全校が協力して運営する

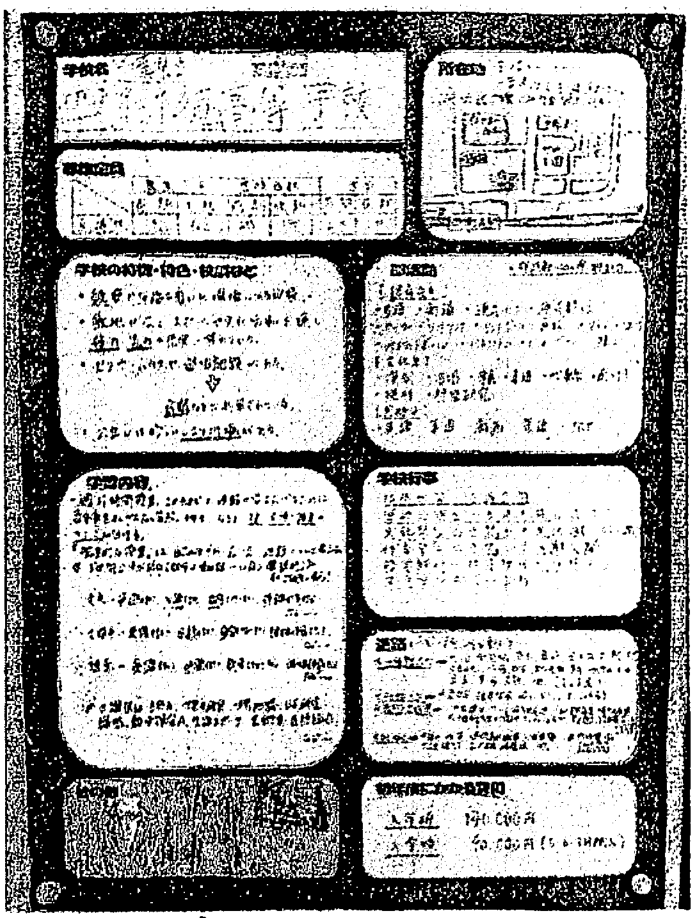
3　研究仮説

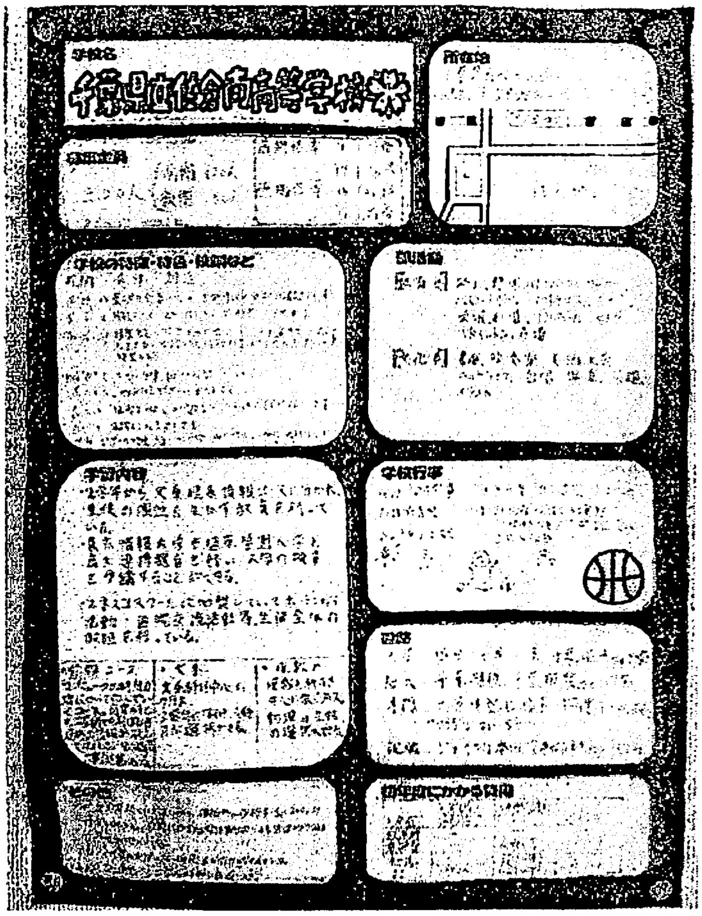
調べ学習や、進路集会（高校説明会）の実施により、生徒が自分自身で進路を考え、選択していく力を育むことにつながるだろう。

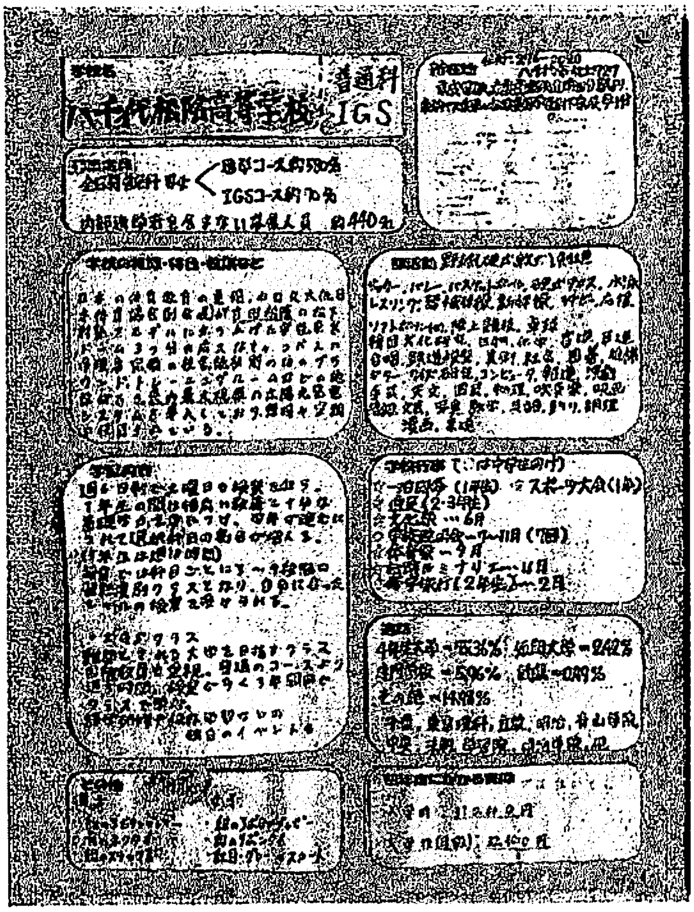
4　研究の内容

（1）高校調べ

２年生の後半に各クラスで公立３校、私立３校の高校調べを行った。３年生に進級する前に、進路に対する関心を高めるために非常に効果的であったと感じる。班で１つの学校を担当し、一人一人が決められた分担を調べてくる。という形で行った。どの班も意欲的に調べ学習に取り組んでおり、廊下に掲示後は立ち止まって記事を見つめている生徒が多く見られた。ＨＰの充実ぶりや部活動の数に驚いている生徒など、今まで見えなかった部分を学ぶことができ、我々教師側も大変勉強になった。以下、生徒の作品を参考資料として載せた。特に内容のよかった４点である。






普通科
八千代松陰高等学校
IGS
IGSコース約70名
内部進学者を含まない募集人員　約440名
ス　ポ　ー　ツ　大会(1年)
修学旅行(2年生)～2月

千葉敬愛高等学校
男女合わせて406名
「敬　愛　天　人」

（2）高校説明会

1　日時：平成３０年６月２０日（水）１～３時間目

2　目的：高等学校の先生より直に高校の様子や、入学試験要項について話を聞くことで、進路実現に向けての意識の高揚を図る。

3　講演していただいた高等学校

・成田国際高校
・佐倉東高校
・佐倉南高校
・四街道高校
・千葉黎明高校
・東京学館高校
・桜林高校

4　効果

どの高等学校も、限られた時間の中で、Power Point 等を使い、非常に工夫をして説明をしていただいた。生徒は真剣に説明に聞き入っていた。保護者の参加人数も多く、関心の高さがうかがえた。

また生徒の感想には、以下のようなものが多かった。

・元々興味があったが、進学したいという思いが強くなった。
・設備の充実ぶりに驚いた
・直接見に行きたいと感じた
・進路決定に向けて、もっと真剣に考える必要がある。と感じた
・勉強を頑張らないといけない。
・勉強以外の基本的な部分を見つめ直していきたい。
・中学校にはない部活動があり、挑戦してみたいと思った。
・提出物等、当たり前のことをしっかりやらなければいけない。

高等学校の先生方は、単なる高校の紹介だけでなく、進路を決定する上で何が大切なのか。入試の際に、どういう点を見ているかなど、様々な話をしていただいた。自分もし社長だったとして、挨拶のできる人。できない人。どっちを採用したいですか。など、高校受験だけにとらわれず、幅広い話をしていただき、大変学ぶことが多かった。と感じている。進路指導の中で、自分の受験する予定の高等学校は必ず見学に行くように。という話をしているが、やはり生徒にとって、こういう機会を通して実際に高校の先生の話を聞くことは、紙面で知ることよりも大きな効果がある。と強く感じた。

5　成果と課題

（1）成果

1　高校調べ

ＨＰなどから様々な情報を手に入るなどし、どの生徒も積極的に学習に取り組んでいた。こういった学習を行うことで、学費の面なども知ることができ、現実的に進路について考えるきっかけになった。今まで名前しか知らなかった高校の中身を知ることができ、３年生になる前段階での意識付けに大きな効果を発揮した。

2　高校説明会

この時期（６月）に実施することで、夏休み前に進路を考える上で、大きな効果があったと感じる。１学期は旅行行事もあり、進路から子供たちの意識が離れがちであるが、こういった集会を持つことで、生徒だけでなく保護者の意識も高まり、実際に説明会終了後には、各高等学校が実施している説明会への参加申し込みが多くなった。

（2）課題

1　高校調べ

・班内での役割分担をする際に、調べる内容によって、時間差が出てきてしまう。もう少し内容を吟味する必要がある。

・生徒たちが調べた情報が正確か分からない。ＨＰ、情報雑誌からの情報に異なる点がある。

2　高校説明会

・学校数を増やせるとよい。が時間的にも厳しさがある。

・高校との事前の連絡の中で、資料は前もっていただくなどの調整が必要。

・受験する可能性が限りなく低い高校の説明の聞き方についての指導。

6　最後に

私も中学時代、自分の進路決定について悩んだ思い出がある。生徒たちが悔いのない進路決定ができるような働きかけを、既存の概念にとらわれずに実施していけるとよい。進路指導は、学校全体で行うものとして、職員と連携し、きめ細かな指導を行っていきたい。

生徒たちが主体的に進路決定をしていくためには、学校生活の様々な場面で、自己決定をさせていくことが必要であると感じる。日頃の指導の積み重ねが、進路指導にも生きていくということを意識しながら、９月以降の指導に取り組んでいきたい。

進路だより

佐倉中学校　進路指導部
H30. 7.19(木)

来春の県内公立高校入試　面接など総得点化

「適性検査」半減へ　「自己表現」は増加

県教育委員会は６日、来春の公立高校入試の前期・後期選抜など検査概要を発表した。県立幕張総合高校が「自己表現」の検査で運動などの実技を選択した生徒を優遇していた問題を受け、県教委は来春の県立高校の入試では学力検査に加え、「面接」や「自己表現」などもすべて得点化し、合計した「総得点」で選抜することを決めた。また、実技が多い「適性検査」は体育科などの専門科に限るよう要請、実施校数は半減した一方、「自己表現」が増えた。

前期は全日制１２４校２０１学科、定時制１７校２０学科で実施。１日目の来年２月１３日に５教科の学力検査、２日目の２月１４日に「面接」など各校の特色に応じた検査を１つ以上行う。

県教委指導課によると、県立幕張総合高校の問題を受け、他の県立高校の特色検査も透明性、公平性を高めるべく、来春試験からすべての検査を得点化。学力検査との合計で合否を判定する。具体的な配点は各学校で決定し、１０月２０日に各校がホームページで一斉発表する。

来春の特色検査は「面接」が最も多く、全日制８７校１４０学科が実施。「自己表現」は同５０校７４学科(前年度は３８校６２学科)が行う。一方、「適性検査」は９校１７学科(同２３校３２学科)で半減した。

県総合教育センター学力調査部は、普通科は幅広い能力を持った生徒を集めるべきとして、部活動の実技検査の実施が多い「適性検査」は行わず「自己表現」をするよう各校に要請。このため、普通科で「適性検査」をするのは市立柏高校だけ。

前回問題となった県立幕張総合高校は２日目の特色検査が「自己表現」で、運動部活動などの実技かアピールを選択する方式だったが、今回は「面接」に変更した。

後期は３月１日に５教科の学力検査を行うほか、全日制８２校１３７学科で「面接」、５校５学科で「適性検査」を行う。ただ、全日制の４０校８０学科は前期選抜枠を１００％に設定。入学確約書が募集定員に達すれば後期は実施しない。

また、県立流山高校で園芸科と生活科学科を園芸科に統合。県立成田西陵高校も生産技術科と生活科学科を園芸科に、県立旭農業高校も生産技術科と生活科学科を園芸科に、県立大網高校も生産技術科と農業経済科を農業科へそれぞれ統合する。

下の表は新聞発表されたものを載せました。すべての高等学校は載せることはできませんでしたが，各教室にはすべての高等学校を掲示をしてあります。

学校名	学科名	前期選抜(２月１２日，１３日)			後期選抜(２月２８日)
		選抜枠 %	第２日(2月13日)の検査の内容	志願理由書	必要に応じて実施する検査の内容・志願理由書
千葉	普　通	６０	作文	／	無
千葉女子	普　通	６０	面接	／	無
	家　政	１００	適性検査	／	無
千葉東	普　通	６０	作文	／	無
千葉商業	*商業・情報処理	１００	自己表現	／	面接
千葉北	普　通	６０	面接	／	無
若松	普　通	６０	自己表現	／	無
幕張総合	普　通	６０	面接	有	無
	看　護	１００	面接	有	面接
八千代	普　通	６０	集団討論	／	無
	家　政	１００	面接，適性検査	／	面接
	体　育	１００	面接，適性検査	有	面接，適性検査
八千代東	普　通	６０	自己表現	／	面接
津田沼	普　通	６０	自己表現	／	無
実籾	普　通	６０	面接	／	面接
船橋	普　通	６０	面接	／	無
	理　数	６０	面接	／	無
薬園台	普　通	６０	面接	／	無
	園　芸	１００	面接	有	面接
船橋北	普　通	６０	自己表現	／	面接

学校名	学科名	前期選抜（２月１３日，１４日）			後期選抜（３月１日）
		選抜枠 %	第２日（2月14日）の検査の内容	志願理由書	必要に応じて実施する検査の内容・志願理由書
白　井	普　通	６０	自己表現	／	面接
印旛明誠	普　通	６０	面接	／	面接
成田西陵	園芸	１００	面接	／	面接
	土木造園	１００	面接	／	面接
	食品科学	１００	面接	／	面接
	情報処理	１００	面接	／	面接
成田国際	普　通	６０	自己表現	／	無
	国　際	１００	自己表現	／	無
成田北	普　通	６０	面接	／	面接
下　総	園芸	１００	面接	／	面接
	自動車	１００	適性検査	／	面接
	情報処理	７５	面接	／	面接
富　里	普　通	６０	自己表現	／	面接
佐　倉	普　通	６０	面接	／	無
	理　数	７５	面接	／	無
佐倉東	普　通	６０	面接，自己表現	／	面接
	調理国際	１００	面接	／	面接
	服飾ﾃﾞｻﾞｲﾝ	１００	面接	／	面接
佐倉西	普　通	６０	自己表現	／	面接
佐倉南	普　通	６０	面接，自己表現	／	面接
八　街	総　合	１００	面接，その他の検査	／	面接
四街道	普　通	６０	自己表現	／	無
四街道北	普　通	６０	面接，自己表現	／	面接
佐　原	普　通	６０	作文	／	無
	理　数	１００	作文	／	無
佐原白楊	普　通	６０	作文	／	無
小見川	普　通	６０	自己表現	／	面接
多　古	普　通	６０	面接，自己表現	／	面接
	園　芸	１００	面接，自己表現	／	面接
銚　子	普　通	６０	面接	／	無
銚子商業	商業・情報処理	１００	自己表現	／	面接
	海　洋	１００	自己表現	／	面接
旭農業	畜　産	１００	面接	／	面接
	園　芸	１００	面接	／	面接
	食品科学	１００	面接	／	面接
東総工業	電気機械	１００	自己表現	／	面接
	電　気	１００	自己表現	／	面接
	情報技術	１００	自己表現	／	面接
	建設	１００	自己表現	／	面接
匝　瑳	普　通	６０	作文	／	無
	理　数	１００	作文	／	無
松　尾	普　通	６０	面接	／	無
成　東	普　通	６０	面接	／	無
	理　数	８０	面接	／	無
東　金	普　通	６０	自己表現	／	無
	国際教養	１００	面接	／	無
東金商業	商業・情報処理	１００	面接，自己表現	／	面接
大　網	普　通	６０	面接	／	面接
	農　業	１００	面接	／	面接
	食品科学	１００	面接	／	面接
	生物工学	１００	面接	／	面接
九十九里	普　通	６０	面接	／	面接
市立千葉	理数	７５	小論文	／	無
市立習志野	普通	６０	面接，自己表現	有	面接
	商業	８０	面接，自己表現	有	面接
市立船橋	普通	６０	自己表現	／	無
	商業	１００	面接，自己表現	／	面接
	体育	１００	適性検査	／	適性検査
市立柏	普通	６０	面接，適性検査	／	面接
	ｽﾎﾟｰﾂ科学	１００	面接，適性検査	／	面接，適性検査

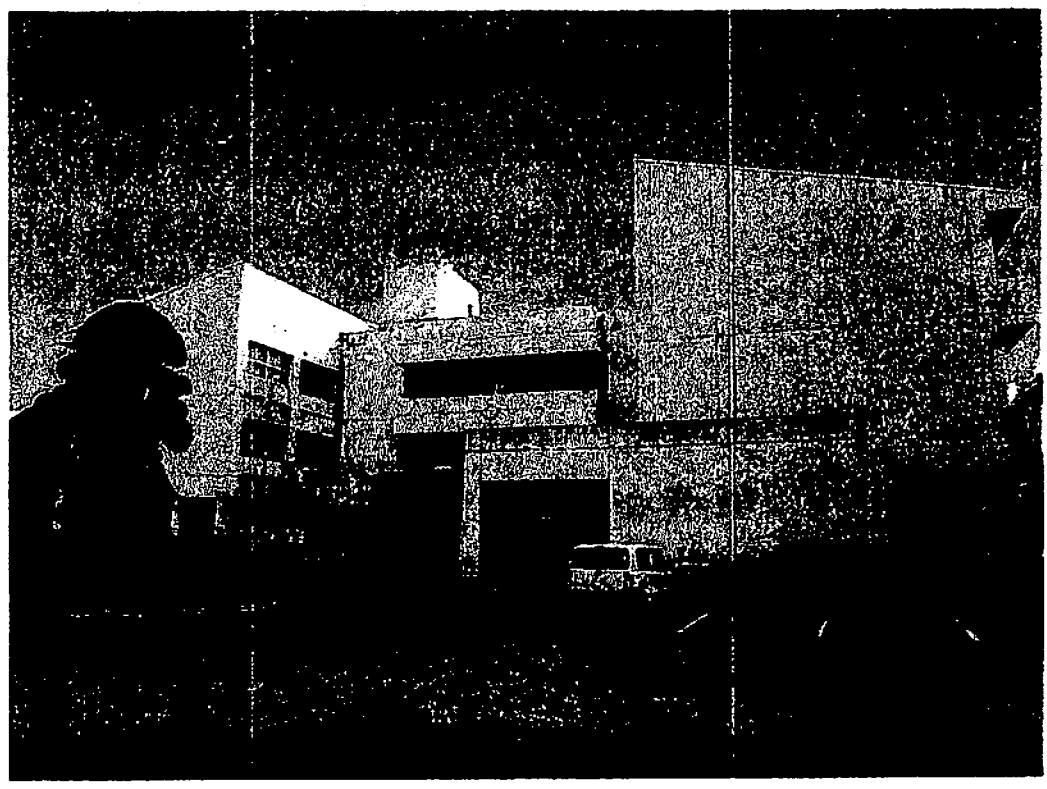
平成３０年８月２２日

印旛教育研究集会

進路指導部　提案資料

研究主題

新しい時代にたくましく生きる力を持つ生徒の育成
～進路選択を主体的にできるための指導の実践を通して～



八街市立八街南中学校
林　昭男

1　研究主題

新しい時代にたくましく生きる力を持つ生徒の育成

～進路選択を主体的にできるための指導の実践を通して～

2　主題設定の理由

本校では高校への進学を希望する生徒はほぼ１００パーセントとなっており、そのほとんどが実際に受験し高校に進学している。

このような状況において、進路指導を行う上で大切にしていることは、自らの適性や個性を理解した上で、どのようにして将来の夢に近づくことができるか、を考えさせるこである。

２年生では、まず自分の興味や特性について振り返ったり、職場体験実習を通して働くことの意義や、自分の将来の生活について考えることとしている。２年生の後半からは、中学校卒業後の進路に関して、高校調べなどを行いながら、自分自身の夢に向かって歩き出すには、どのような進路選択があるのかを考えられるように学習している。

しかし３年生になり、進路選択が現実的なものになってくると、学力が思うように伸びなかったり、希望の進学先に合格できないのでは、という不安からそれまで考えてい「夢に近づくための進路」を変更し、「入れる学校」を選択するようになってしまうことがある。

そのようにして志望校を変更した生徒に、進学後の様子を聞くと「自分が思っていたような学校ではなかったと」とか「高校が面白くない」ということを口にすることが多く、適切な進路選択ができなかったことに悔いが残る。

中学校としては、生徒の個性や、目的を持った進路指導を進めようとしているが、最終的に生徒や保護者にとっては、「まず進路を決める(高校に入る)」ということが最優先になってしまっているのが現状ではないかと感じることが度々ある。

中には苦渋の選択として変更する生徒おり、進路変更を全て否定するものではない。

学校の現状から

本校の学区が交通不便な地域にあり、最寄りの駅となるJR八街駅、JR東金駅、JR大網駅までおよそ10kmもの距離がある。さらに電車やバスの便数も少ないため、通学に不安を感じている生徒や保護者も多い。そのため進学できる範囲がかなり限定されていると考えている生徒が多く、実際にこれまでの卒業生の多くは自転車で通学できる市内や近隣の高校へ進学する生徒が多くなっている。このような状況のため、積極的に広い地域の高校を調べたり、いろいろな高校説明会に進んで参加しようとする意識が低いように感じられる。そのような進学に対する意識からか、学習意欲も低くい傾向にある。

また経済的な理由から、受験においては公立志向の傾向が強い。そのため併願校を受けず「公立一本」で入試に臨む生徒が多いため、必然的に安全圏の高校を受験することが多い。

このような本校の生徒の状況を改善していくためには、生徒自身に進学に対する目的をしっかり持たせ、その実現のためにはどうしたらよいのかを考えさせることが重要となる。

さらに生徒自身の進学に対する意欲が継続されるようにし、目標に対する努力も継続させていくことが必要と考えられる。そのために進路に関する情報をさまざまな機会に繰り返し示したり、自分の進路について繰り返し考えることで、自分の進路に対する意識を高めていくことができると考える。それにより、自らの適正や能力に応じた進路選択を主体的に行うことができるだろうと考え主題設定とした。

学校の特色

本校は、昭和６２年に創立され、一昨年には創立３０年を迎えた。八街市の南部に位置し、緑豊かな自然に恵まれた教育環境良好な地にある。田畑を中心とした農村地帯の中に住宅が建設され生徒増が続いていたが、最近では少子化の影響のためか、生徒が徐々に減少する傾向にある。本校も数年前までは一学年２００名を超えていたが、最近では約１２０名、学年４クラスとなっている。

生徒たちは明るく素直で、人の注意や与えられた仕事等に、熱心に取り組むことができている。体育祭や合唱コンクールなどの行事にも全校で協力して、毎年熱く盛り上がっていることが伝統となっている。

部活動にも意欲的に取り組み、バレーやバスケ、バドミントン、陸上が毎年県大会に出場し活躍している。しかし最近では生徒数の減少から部員数の確保に苦慮している。

生徒指導的な問題はほとんど無く落ち着いた生活を送っているが、集団不適応などによる精神面の不安を抱える生徒や長欠生徒が多く、大きな課題となっている。その解決のために校内適応指導教室やスクールカウンセラーと連携して対応にあたっている。

(１)学校経営方針

教育の基本は人格の完成を目指すという理念に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成することが本校の理念であり目標である。教育推進にあたっては、生徒の人権を尊重し、その能力は無限の可能性をもつものとして、一人の生徒も置き去りにしない深い愛情を持ち、生徒一人一人の良さを見い出し、これを伸長させることを念じつつ、常に「連帯」と「協調」の精神で結ばれ、英知と汗を出し合い日々の教育実践に努めている。

八街南中学校の求める生徒像

・勉強する生徒(調べ考え工夫し生活に生かす)
・命を大切にする生徒(自他愛)
・運動する生徒(自ら体を鍛える)
・挨拶する生徒(場に応じた礼儀)
・掃除する生徒(気配りのある清掃)
・正装する生徒(らしさの追求)

(２)進路指導目標

本校の学校経営の努力点の中で、進路指導の充実を図るために「計画的な進路指導の推進、発達段階に応じた進路学習の充実」を目標として掲げ、以下の項目に重点を置き取り

組んでいる。

・生徒自らの生き方を考え、将来の職業選択に向けて目的意識をもって学習に取り組むことができるようにするとともに、生徒の意思を尊重することを前提として、生涯にわたって自己実現を目指すための能力や態度の育成に努める。
・総合的な学習の時間や各教科等での体験的な学習を通じて、生徒が自らの個性･特性及び長所を発見し、自信をもって生活できるよう指導する。
・生徒自らの手によって進路を切り拓く力を培うという観点から、生徒自身が情報を収集する活動を、計画的・系統的に実践できるよう、授業展開を工夫する。
・本校ののキャリア教育は、子どもたちが将来の夢や目標に向かって意欲的に学び、社会的・職業的自立に向けて、就労や進学などを含めて、自らの在り方や生き方を考えながら人生設計を行うことができる態度や能力の育成を目指している。

(3)各学年の目標

1学年
・中学校生活に適応すると同時に、自己をよく理解し、将来の目標を持ち努力できる生徒を育てる。
・将来の夢を実現していくために、目標をもって充実した生活を送れるようにする。
・望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。(職業セミナーの実施)

2学年
・自己をよく理解し､明確な進路希望や計画をもち具体的な努力ができる生徒を育てる。
・職場体験をすることで、自分の能力を再発見し、進路計画を改善しながら実現しようとする態度を養う。

3学年
・自己の特性や希望する進路に関する情報を理解し、進路を選択し、実現に向けて努力できる生徒を育てる。
・最高学年として責任ある行動がとれるようにする。

3　研究の仮説

各教科、特別活動、総合的な学習の時間において、それぞれの教育活動の特質を生かして進路に関する啓発的な活動を行うことにより、生徒が自己の在り方や生き方を考える機会が増え、自らの将来を主体的に選択していくことができるだろう。

4　研究の内容

生徒が主体的に進路を選択する能力・態度を育成するために、進路指導との関連を図った教科、学級活動、行事を適切な時期に計画的に実施することにより、生徒自身が卒業後の進路や将来について考えいくことができると考える。

イベント的な活動を実施するとともに、学級活動や面談などを通して、生徒の将来や目標にあった進路選択ができるように指導していくことで、生徒の目が高校生活に希望や目的を持つことができるようなり、主体的に進路選択を行うことに繋がると考える。

またそれぞれの活動を実践するにあたって、教科担当教員や学年職員が目的を十分に理解しておくことが必要である。そのために、学年会議や企画会議などで話し合いを持ち、共通理解をして臨んだ。

5　研究の実践

■教科

教科：国語(２学期後半から実施)

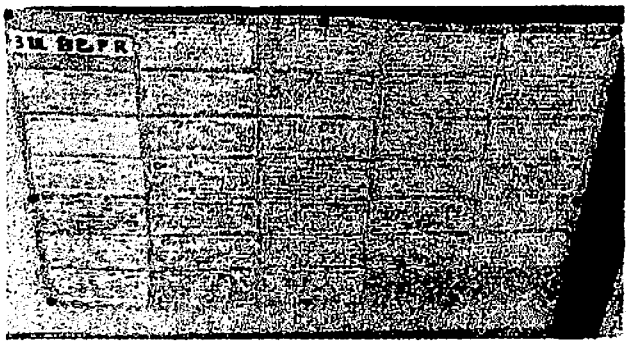
・自己ＰＲ文を読み合う　→志願理由など　→掲示して読み合う

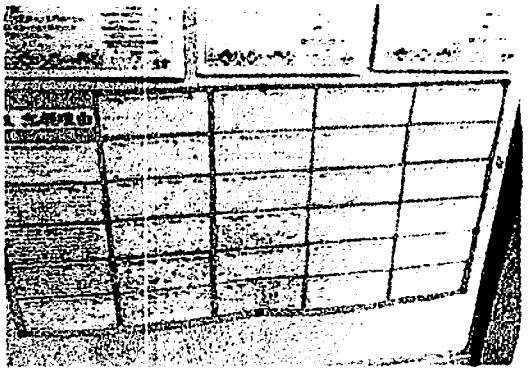
・スピーチで学びを深めよう　→面接につなげて(自分の考えをまとめて話をする)

・友だちの考え方や異なる立場からの物事の見方を理解し、相手の意見を聴いたり、自分の考えを正確に伝える力を付けるための場となっている。

・文章力や語彙を増やすことを目的とした作文指導を、１年生から継続的に行っており、３年の国語の単元で「自己ＰＲ文を読み合う」の中で、自分自身の将来や進路に関して深く考えさせた上で、自らの進学に対する目標や決意を作成させ、「自己ＰＲ文」を作成し発表したり掲示して見合ったりしている。

・文章を作るだけでなく、友だちと読み合って内容を修正したり、教科担任から添削を受けながら、自分の気持ちを振り返りながら内容を深めていく。





■行事を通して

◇高校進路説明会(６月と１０月に実施)

３年生の生徒と保護者を対象に進路説明会を年に２回実施している。１学期の説明会では、公立高校３校と私立高校３校を招き、高校側から学校(学科)の特色やＰＲポイントなどの説明を聞くことができ、各校の特色を知ることができる。また、「中学校３年生の今、頑張って欲しいこと」についても話してもらうよう事前に依頼している。高校からは「自分の目標を持って欲しい」や「夢を持って高校に進学して欲しい」など、生徒自身が自分の将来について前向きに頑張ろうと考えられるような会となっている。また、家庭でも進路説明会を話題に、進路について親子で話し合うきっかけとなっている。

なお、第２回の進路説明会は、事務的な内容についての説明を行っている。

平成３０年度は、公立　成東高校、八街高校、東金商業　私立　千葉敬愛、千葉黎明、千葉学芸を招いて実施した。

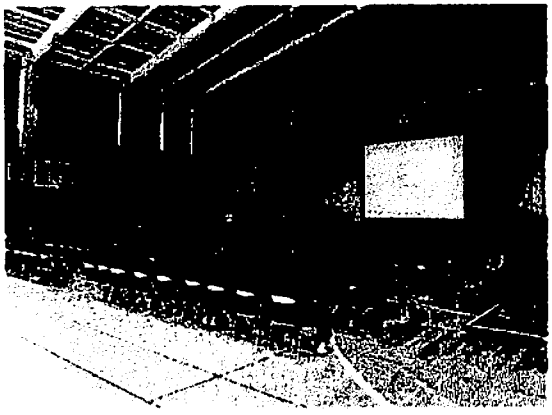
◇「命の教育」（３月上旬実施）

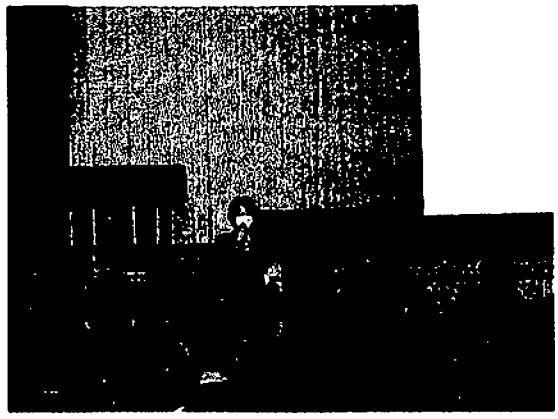
卒業を間近に控えた３年生に、印旛地区助産師会から助産師さんを招き、将来に向けて性に関する正しい知識と望ましい行動選択や、大切ないのち(いのちの重さ、つながり)について学ぶ機会としている。

平成２９年度は、「生と性を見つめて～いのちに寄り添う現場から思うこと」という講話を行った。命の重さや、自らの命は、父や母から、そしてさらにその親から脈々と繋がっている大切なもので、自らも自分の子に命のバトンをつないでいかなければいけないという話を聴き、将来に向けてしっかりと生きていこうとする気持ちを育てることに繋がっている。生徒たちは、落ち着いた雰囲気で真剣に話を聞くことができている。

この「命の教育」は本校では、毎年３年生と保護者を対象に実施している。

平成２８年度までは、本校在校生の保護者(助産師)に講話を依頼していた。

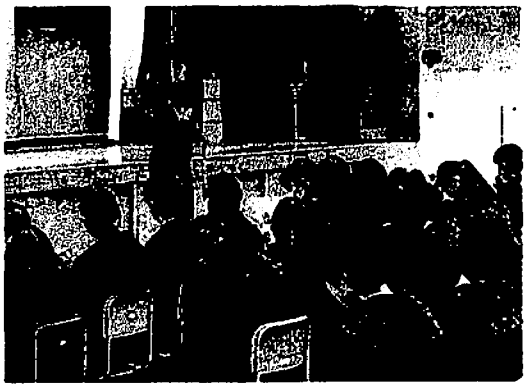


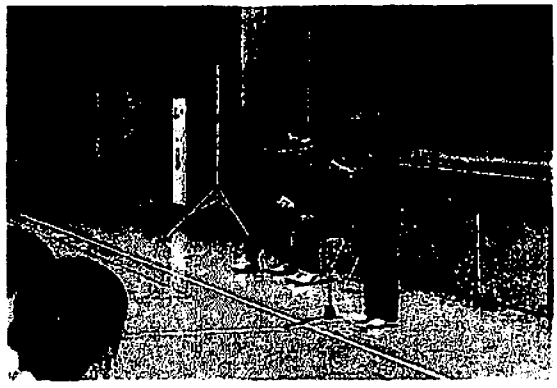


◇「卒業生に聞く」（３学期末に実施）

卒業した３年生を数名と３年生学年主任を迎えて、２年生に対して話をしてもらう会として行っている。２年生は、卒業した３年生から、どのような気持ちで３年間を過ごしたのかや、どのように進路選択を行ったかなど経験談を直接聞くことができる機会となっている。卒業生からは、どのようにして家庭学習で工夫したとこや、テスト対策など具体的な話を聴くことができた。また、部活動との両立で苦労したことや、行事を行うことでクラスがまとまっていった時の嬉しさなども語られた。

３年生になる心構えや、進路に対しても考え始める機会としている。





■コミュニケーション力や表現力・思考力を高めるための実践

◇全校面接指導(１月上旬に実施)

１月の私立高校入試前に、３年生全生徒を１０人程度のグループに分け、３年生以外の職員がそれぞれ担当して面接を行う。全職員が生徒との面接を行うため、１・２年生は午後の時間をカットし一斉下校にして実施している。担当した職員に面接の方法は任されている。１対１の個人面接をする場合が多いが、集団面接形式でも行うグループがある。

生徒は事前に会場を整え、面接を担当する職員はスーツに着替え緊張感を持って臨むようにしている。生徒は、それまで練習してきた面接のスキルを試す場となっている。また、面接を担当した職員は、面接後に生徒に自らの経験を元に、進路や受検に関する貴重な話をし、入試に向かう生徒を応援する気持ちを伝えるる会ともなっている。

◇校長面接 、（１学期に実施)

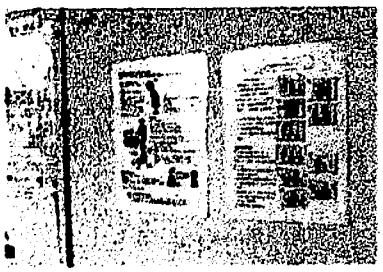
３年生に進級し、最高学年としての自覚や進路に対する考えなど、さまざまな思いを抱える生活が始まる１学期に、普段あまり個人的な話をする機会が少ない校長と、一対一で面接を行っている。朝や昼休み、学級活動などの時間を利用して、３年生全員を対象に行っている。生徒は、敬語を正しく使うなど、礼儀を意識した行動をとることはもちろん、自分の気持ちや考えを言葉でしっかり表現することや、質問されたことに対して適切に答えることも重視している。

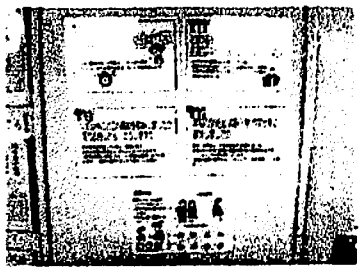
生徒は、担任や副担任との面談とは違って、緊張感のある中での面接として効果的である。

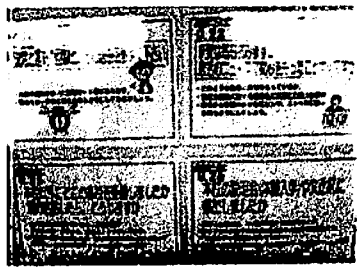
入試の直前にも、推薦入試や希望する生徒に対しても校長面接を実施している。

◇廊下掲示物(１０月頃から実施)

３年生の普通教室棟の廊下に、面接時のポイントや関連した情報を掲示物している。掲示物は大きな文字やイラストで表現され、休み時間などに見てすぐに理解できるよう工夫してある。掲示物は、内容を少しずつ変えながら常時２０枚ほどが掲示するようにし、生徒が見飽きないように工夫した。生徒たちは、掲示物を見ながらお互いに面接の練習をしたり、面接の仕方を確認をしたりしている。これらの掲示物は、大切な場面において適切な態度やマナーを学ぶことを目的に掲示されている。また入試が近づくと放課後に担任や、生徒に依頼された職員は何度でも面接練習を行い、生徒の面接の不安を軽減できるようにしている。







■その他

◇教育委員会主催の進路説明会「未来の扉を開こう」（１０月中旬実施）

八街市教育委員会が不登校や学校不適応な生徒を対象にして開催している進路説明会である。毎回、定時制高校と通信制高校、合わせて１０校程が参加している。各高校ごとに職員や生徒による学校紹介があり、その後に学校ごとにブースを開いて個別の説明に応じてくれる。主に不登校傾向や教室に入れない生徒や保護者に、進路選択を考えるために参加を勧めているイベントである。不登校の生徒がいる家庭では、進学希望があっても情報不足から迷うことも多い。そのため中学校では、保護者に積極的にこの会への参加を促している。

※中学校主催で行っている行事ではありませんが、紹介させていただきます。

6　成果と課題

(１)成果

①「教科の授業を通して」について

・作文という形に表すために、自分の進路について深く考えることができていない部分について、改めて自らを振り返る機会となった。また、友だちの文章を読むことで、表現の仕方を学んだり、自分の考えを深めたりまとめていくことにつながっていった。

・与えられた課題に対して情報を集め、自分の考えをまとめてスピーチ発表する活動を通して、コミュニケーション力をつけることができた。

・高校について改めて調べ直したり、説明会での経験を振り返ることができた。

・自分が高校で何がしたいのかを言葉にするために、はっきりさせることができた。

②「行事を通して」について

・進路説明会では、高校の先生から特色や求める生徒像などを聴くことにより、その高校についてより詳しく知ることができ、進路選択のための考え方の幅が広がった。

・高校について自分が思っていた事との違いに気づいて、改めて高校について調べたり、学校説明会への参加の意欲を高めることに繋がった。

・授業料の減免制度について説明をしてもらったり、各校の説明会で詳しく減免される金額について聞くことで、私立高校も進学先として検討する家庭が増えた。

・「命の教育」では、自分の将来について考えるとともに、命の大切さについて改めて学ぶ事ができた。卒業間近のこの時期だからこそ、真剣な態度で講話を聞くことができた。

・自分の将来の生活や、未来の家族に対する気持ちを考える機会となった。

・親に対する感謝の気持ちを持つことができた。親へ感謝の手紙を書き、親は子供に卒業を祝う手紙を書いてもらい、卒業式で受け渡しを行った。

・「卒業生に聞く」では、これから最高学年となることや、進路に対しての漠然とした不安を持つ２年生にとって、自分たちと同じような不安を抱えながらも、それを乗り越え立派に卒業していった先輩の生の声を聴くことで、現在の自らの生活を振り返るとともに、自らの目標や課題に気づく事ができる機会となっている。質疑では、部活動と勉強の両立

についてや、進路選択で悩んだことなどについての質問が多数出ていた。
・よく知っている先輩から、どのように受験に向けて過ごしてきたかや、進路選択に関する経験を聞くことにより、受験に向けての心構えを持つことができた。また苦手教科の勉強法や、部活動との両立について等、先輩から生の声を聞くことができた。

③「コミュニケーション力や表現力・思考力を高めるための実践」について
・面接などで自分の考えをはっきり述べるために、自分自身の意思を振り返ったり、進学先について改めて調べることは、自分の進路選択を改めて考えるとともに、夢を叶えたいという気持ちを強くする機会となった。
・全校面接指導、校長面接では、質問されたことに対して、自分の考えや意思を適切な表現で伝えたり、敬語やマナーなど身につけてきたことを確認する機会となった。面接練習は担任とは何度も行われるが、それとは異なる緊張した環境でうまく受け答えできない生徒もいるが、入試に向けて見直す機会となった。
・全校面接は、他学年の生徒を下校させ授業をカットして行う行事であるため、３学年以外の職員も有意義なものにしようとする意識を感じるとともに、全職員で３年生を応援しているという思いを生徒に伝えることができた。
・廊下掲示は、面接などのマナーについて、生徒が休み時間などに見ながら確認したりするとともに、面接などについても考えなければいけない時期に来ていることを自覚することにもなっている。

④「その他」について
「心の扉を開こう」について、不登校だった生徒が自分の新しい未来に目を向ける機会となっている。
・長欠生徒の担任も会に参加するようにし、生徒にあった進路選択ができるように相談に応じながら、本人にとってよりよい進路選択ができるように手助けを行っている。
・この場で出会った学校に進学するケースも少なくなく、中学校では不登校であったが、進学先ではほとんど休まず、生き生きと学校生活を送っている生徒もいる。

(２)課題
・それぞれの活動において、生徒に対して事前に目的や意義を十分に理解させ、生徒自身が目標を持って臨むことができるように指導することが重要である。また事後指導において、活動を振り返り、以降の生活に生かしていくことができるようにすることが必要。この点に関しては、生徒との関わりが多い担任の指導力が重要であった。
・様々な生徒や保護者の要望に応えられるよう、教師側が多くの高校の情報を広く準備しておくことが必要。学費の免除や特待制度や通学手段(路線バスや自転車で通学できるか)に関する事など、本校においては不可避な問題に対する答えの準備とアドバイス。
・管理職や職員が年々入れ替わる中、それぞれの活動の意義を理解してもらうとともに、授業時数の確保という観点からも、適切な時期に計画的な実施を行っていく必要がある。
・今後、他の教科や道徳においても、積極的にキャリア教育の視点で取り組めるよう工夫していく必要がある。

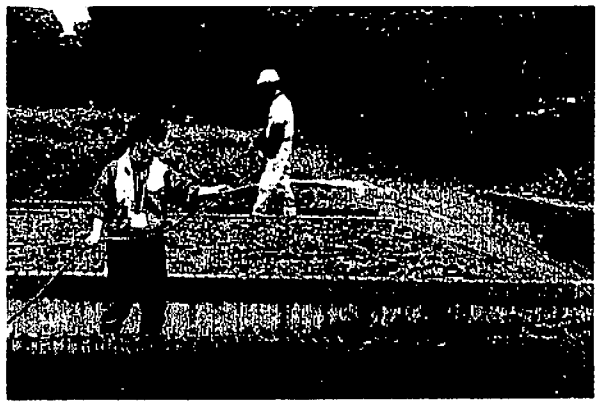
平成３０年度　第６８次印旛地区教育研究集会
進路指導分科会提案資料

進路指導研究部研究主題

自らの進路を切り拓くキャリア教育の推進

研究副主題

「キャリア教育　中学校３年間の取組（実践報告）」
～夢を持ち，自ら伸びる心豊かな生徒の育成を目指して～



第三部会　白井市立桜台中学校
鹿野谷　毅

1　本校の概要

（1）学区及び保護者の状況

学区は，白井市を東西に走る北総線千葉ニュータウン中央駅と小室駅の中間に位置し，印西市と船橋市に隣接している。矢田(やた)，清戸(きよと)，神々廻(ししば)，十余一(とよいち)の在来地区と住宅団地の桜台地区からなっている。学区中心部は高層住宅が建ち並び都会的景観が見られるが，在来地区は梨の産地で，周辺は緑豊かな田園風景が広がっている。

ニュータウンに開設した学校として，小・中学校校舎が２階にある廊下でつながり，家庭科室や図書室は小・中が共用し，さらに，教室と廊下を仕切る壁のない独特の作りになっている。

現在は，ニュータウン建設当初からの入居・転入による生徒が急激に増加していた時期が終わり，数年前から生徒の数も減少の傾向にある。

（2）生徒の実態

落ち着いた学校生活を送っている。朝読書は整然と行い，委員会活動や毎日の清掃，生活班での当番活動等にもほ協力的である。このように，言われたことや指示されたことはその通りに行うことができるが，自分に必要なものを自ら選択し，学習や生活に役立てていくことは苦手である。また，自分自身のことについての関心は高いものの，他者への配慮や集団としての在り方について深く考えることは少ない。さらに，一小一中という環境から，人との新たな出会いや交わりの機会も限られ，小学校からのマイナス面の人間関係を断ち切れず，中学校進学時に新たな自分に変わる機会を逃す生徒もいる。

進学への意識は高く、学力面でよ上位の高等学校への進学を希望する傾向に有り，将来の夢や希望，どんな高校生活を送りたいのかを深く考えていない生徒が多い。

（3）学校教育目標

夢をもち　自ら伸びる　心豊かな生徒の育成
～　夢・こころ・汗　～

≪めざす生徒像≫

・意欲的に学び、活きた学力を持つ生徒（知）
・心豊かで，自他ともに大切にする生徒（徳）
・心も体も健康で，たくましく生きる生徒（体）
・自ら気づき、すすんで働く生徒（奉仕・勤労）

（4）研究主題

心を耕す集団作り（自己表現できる生徒の育成）
～　教科・道徳・特別活動を中心に　～

【主題設定の理由】

自分の考えや意志を言葉や行動で表現することなどがあまり得意ではない。教育活動全般に於いて，他者とコミュニケーションを図りながら協力して活動する能力を養い，「自己表現できる生徒の育成」につなげていきたいと考える。

4. 本校のキャリア教育の目標

・白井市立春式のテーマ「自覚・立志・健康」の実現に向け、地域の教育力を生かした職業体験学習に取り組むことにより、生徒の規範意識や社会性を高め、将来の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身につけさせる。

・「どんな生活や、人生を送ったらよいか」を考え、その中で、人間としての望ましい資質や人生観の形成・確立を図りつつ、将来において、生きがいのある充実した人生を送ろうと努力する生徒を育成する。

≪各領域におけるキャリア教育≫

○道徳

道徳性の発達の出発点は，自分自身であり，自己を大切にすることである。しかし中学生は，身体的にも大きな変化を経験し，その自己像は大きく揺れ動く。それまで，程度の差はあるものの周囲の期待にそって「良い子」として振る舞ってきた子どもたちも，中学生のころから，様々な葛藤や経験の中で，自分を見つめ，自分の生き方を模索するようになる。感情や衝動の赴くままに行動し，自分の弱さに自己嫌悪を感じることもあるであろうし，逆に，理想や本来の自分の姿を追い求め，大きく前進しようとすることもある。中学生は，そのような大きく，激しい心の揺れを経験しながら，自己を確立していく大切な時期にある。一人一人の生徒の姿を，表面的な言動だけで決め付けることなく，自己確立へ向けての模索の姿として，広い視野で見守ることが大切である。

このような中学生の自己探求の過程において大きな役割を果たすのは，かれらの夢や理想である。中学生の時期にどのような夢を膨らませ，どのような理想を描くかということが，その後の人生に大きな意味をもつことを理解し，生徒一人一人が自分の夢や理想をしっかりと見つめ，その実現に近づけるように励ますことが大切となる。

○総合的な学習の時間

「職業や自己の将来に関する学習」とは，成長とともに大人に近づいていることを実感すること，自らの将来を展望すること，実社会に出て働くことの意味を考えること，どんな職業があるのかを知り，どんな職業に就きたいのか，そのためにはどうすればよいのかを考えることなどである。このように，職業や自己の将来に関する学習を行うことは，中学生にとって，とても関心の高いことであり，中学生の発達にふさわしいものである。

中学生は，未熟ながらも大人に近い心身の力をもつようになる。大人の社会とかかわる中で，大人もそれぞれ自分の世界をもちつつ，社会で責任を果たしていることに気付いていく。また，義務教育修了段階において，進路選択を迫られる場面にも出会う。こうした時期に，働くことや職業を自分とのかかわりで考えることや，自己の将来を展望しようとすることは，自己の生き方を考えることに直接つながる重要な学習である。

○特別活動

中学生の時期は，親への依存から離れ，自らの行動は自ら選択決定したいという独立や自律の要求を高めていく。同時に，自分の将来における生き方や進路を模索し始める。また，様々な人々の生き方にも触れて，人間がいかに在るべきか，いかに生きるべきかについても，考え始めるようになる。しかし，一般的にいって，生徒には経験や情報が不足していたり，また自分の将来を考えるための思考力の発達などもまだ十分でないため，適切に対処することが困難であること

が少なくない。したがって，教師はこのような問題に生徒が積極的に取り組み，適切な解決策を見いだしていけるように，特別活動の各内容，特に学級活動の時間を計画的に活用して，指導・援助を行う必要がある。その際特に，自己の判断力や価値観を養い，主体的に物事を選択決定し，責任ある行動をすることができるよう，人間としての生き方についての自覚を深めさせ，集団や社会の中で自己を生かす能力を養わせていくことが大切である。また，生徒が社会の一員としての望ましい在り方を身に付け，健全な生活態度や人生及び社会について主体的に考えていくよう，教師は忍耐強く指導・援助することが必要である。

≪キャリア教育で身につけたい力≫

［人間関係形成・社会形成能力］

多様な他者の考えや立場を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに，自分の置かれている状況を受け止め，役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し，今後の社会を積極的に形成することができる力。

［自己理解・自己管理能力］

自分が「できること」「意義を感じること」について，社会との相互関係を保ちつつ，今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に，自らの思考や感情を律し，かつ，今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

［課題対応能力］

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し，適切な計画を立ててその課題を処理し，解決することができる力。

［キャリアプランニング能力］

「働くこと」を担う意義を理解し，自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ，多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら，自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

2　実践内容

第１学年「学年道徳」

「身近な人への職業インタビュー」や「書籍による職業調べ」に加え、ハローワーク船橋から講師を招き、「働くとは」について講演を聴く。

（１）目的　勤労の尊さ　　価値項目番号　Ｃ－（１３）

勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。

（２）実施内容（　４時間扱い　※講演は２時間分　）

・１時間目（道徳）　事前アンケート（講師より依頼あり）実施　「なりたい仕事・知りたい仕事」

・２時間目（総合）　職業レポート発表会（各学級）

事前（夏季休業中）に身近な人に「職業インタビュー」を行い、作成したレポートについて発表する。

・３、４時間目（道徳）　講演「なぜ働くのか考えよう」

講師　厚生労働省千葉労働局 ハローワーク船橋 専門援助部門 学卒ジョブサポーター

※当日の司会・進行等を全て生徒が行う。

（3）成果と課題

【成果】（何より、ハローワークの方から直接お話を聞ける、という設定が効果的だったため）

・社会人だけでなく、中学生と近い年齢の人（中学卒業後の就労、高校中退等）もハローワークを訪れること、また、そこでどのような悩みを抱え、仕事を探し、就労していくか等、実際にあった出来事をお話頂き、就労が他人事ではないということを多くの生徒が感じることができた。

・「１３歳のハローワーク公式サイト」「なりたい仕事が見つかる職業情報ガイド　キャリアガーデン」等、インターネットで仕事や就労について調べることができるサイトの紹介や、講演の中でそのサイトの使用の実演して頂くことで、仕事についての知識を得ることが比較的簡単で、生徒にとって身近に感じることができるようになった。

・夢を叶えるまでの道のり、体験談を聞いたり読んだりすることで、中学生になると、「憧れ、夢を抱く」だけではなく、その夢を叶えるためのプロセスを知り、それを実践していくことが必要であるということ。さらに、夢を叶えることは決して容易いことではないが、それを諦めない気持ちと努力が不可欠であることを生徒自身が感じることができた。

・講演前に、「事前アンケート　なりたい仕事・知りたい仕事」を実施し、ハローワークの方が、それをもとに桜台中学校１年生の興味ある仕事について資料を作成し、一冊のファイルにまとめて下さった。そのファイルは、自分達のために作成して下さったオリジナルであるということで、生徒達が休み時間なども利用して、くり返し読む等、積極的に活用する姿が見られた。

【課題】

・今年度初めての取り組みであったが、２年、３年と段階を追って継続的に講演をして頂くと、さらに効果的ではないか。

・公式サイトを紹介して頂いたが、実際に学校で生徒自身が活用する機会を設定できなかった。また、その情報を他学年と共有することができなかった。

第２学年「職業体験学習」

（1）目的

千葉県学校教育指導の指針（中学校）では、キャリア教育の推進について、「職場体験、ボランティア活動、幼小中高大等との多様な学校種間の連携、上級学校調べなどの体験活動を通して、発達段階に応じた勤労観・職業観の育成を図る。」「生徒が働くことへの夢や希望の源となる多くの感動が得られるよう、活動内容や指導方法を工夫する。」としている。また、1学年時の『私の職業調べ』『働く目的』などの活動を発展・系統的に進め、進路や職業に対する興味・関心・知識・理解を深めさせてきた。

これらのことから以下の5点を念頭に置き、職場体験学習を実施していきたい。

①働くことを体験することにより自己の職業適性について考え、進路選択における「自己理解」を深めさせる。

②働く人々に接することにより、働くことの喜びや苦労・生き甲斐など知り、望ましい「職業観」，「勤労観」を形成させる。

③事業所での体験と立春式への取り組みを通して、社会の一員であることを自覚し、自己の行動に対する「責任感」を育てるとともに、働く際の「態度」や「礼儀」を学ばせる。

④地域の事業所を中心に体験することによって、地元の企業や職業についての意識を高め、「郷土愛」を深めさせる。

⑤報告会および立春式の活動を通して、体験したことをまとめ、発表する力を養う。

（２）実施内容（　２６時間扱い　）

累計時数	職業体験学習関係計画その他
	短学活　学年集会（職業体験学習オリエンテーション・体験希望職種調査）希望職種傾向把握。
1	総合　職業について
2	学活　学年集会（職業体験学習オリエンテーション、体験希望先アンケート実施）
	体験事業所別生徒割り振り・職員割り振り完了。（必要なら新規事業所開拓。）
	帰りの会で生徒体験先発表。
3	総合　第1回事業所別会議（メンバー確認、代表者決め、今後の予定確認など）
	職員による事業所訪問（挨拶と打ち合わせ）
4	総合　『私のプロフィール』作成、『職業体験学習のしおり』製本配付
5	総合　職業について　　事業所訪問の注意
6・7	**総合　生徒事業所訪問・事前打合せ**（「私のプロフィール）渡しなど）
8	総合　前日集会、前日事業所別会議
9～20	**総合　体験当日**
21	総合　事業所別会議（反省・お礼の手紙作成・報告会準備）
22	総合　報告会準備①
23	学活　報告会準備②
24	総合　報告会準備③
25・26	**総合　職業体験報告会**

（３）成果と課題

【成果】

・１年生のころから行ってきた「職業調べ」や立春式にも関わる、自分の将来の夢や希望をふまえ、事業所の希望をあげている生徒が多く見られた。

・実際に事業所で体験することで、その職業の今まで見えなかった苦労や、やりがいなどを感じてきた生徒が多く見られた。

・自分たちの経験してきたことを、わかりやすく模造紙にまとめることができた。

・報告会を通して、経験してきたこと、その職業の様子などを伝えることができた。

【課題】

・体験が２日間であるため、受け入れてもらえる事業所が限られてしまい、生徒の希望が偏った場合、希望通りに行かないことも考えられる。（「例年通り」が多く、新規に開拓が難しい。）

・２８年度は期日が月末だったため、例年お願いしているところも、（生徒への）対応が十分にできないので、断られるケースがあった。（日程の再検討が必要かと思われる。）

第２学年「立春式」

（１）目的

＜立春式とは＞

現代の元服式ともいうべき、「14歳立春式」は（社団法人）日本児童文芸家協会の提唱にかかるもので、「自覚」「立志」「健康」を目標に掲げて、14歳を迎えた少年少女たちに、14歳という年齢が個人的にも社会的にも重要な年齢であることを自覚してもらい、明るい祝祭を催し、希望を与え、前途を祝福し励ます行事のことである。（日本児童文芸家協会の「14歳立春式パンフレットより」

＜白井市の立春式の経過＞

立春式は、昭和39年度に白井中学校で初めて実施されました。 その後、千葉ニュータウン開発事業により人口が増加し、昭和54年度に大山口中学校、昭和55年度に南山中学校が開校したことに伴って、昭和56年度第18回立春式から3校合同で式典が実施されるようになりました。

昭和59年度に七次台中学校が開校した際には、翌年度の第22回立春式より4校合同で式典が実施されています。 しかし、平成元年度の第26回立春式がインフルエンザの流行により各校で実施されて以来、各校で独自に式典を行なっています。 現在は、平成6年度に開校した桜台中学校を含め市内5校で行われており、平成28年度で第53回を数えるに至っています。

桜台中では、保護者や来賓、地域の方や後輩に対して、下の「自覚」「立志」「健康」面から、成長した自分をあらわすことを目的に毎年12月に2年生を対象に実施しています。

「自覚」……自分の言動に対して、責任と自覚を持てることをあらわす。
「立志」……自分の夢への展望や志への努力をあらわす。
「健康」……心身ともに健康でいられるように、自分と周りの人への思いやりの心をあらわす。

（２）実施内容

第一部：式典プログラム

①開式のことば
②校歌斉唱
③校長式辞
④生徒代表挨拶
⑤教育委員会挨拶
⑥「立志の作文」発表……ひとりひとりが「立志の作文」を書き、代表が発表する。
⑦「私の決意」発表……ひとりひとりが夢や志を色紙に墨書し、全員が発表する。
⑧学年合唱発表
⑨閉式のことば

第二部；講演会

※講演会の講師の先生

２５年度　「車イスのアーティスト」佐野有美さん

２６年度　「小笠原流礼法師範」　安松弥生さん

２７年度　「元Ｊリーガー」小澤英明さん

２８年度　「リオ五輪ウエイトリフティング入賞」　安藤美希子選手

（３）成果と課題

【成果】

・生徒自身の手で式典を運営することにより、学年のリーダーの生徒が活躍する場ができる。

・式典ということで、厳粛な雰囲気の中で練習から本番と行うことで、２年生の１２月という中だるみのしやすい時期に、緊張感を持たせながら、自分の目標を再認識することができる。

・職業だけでなく、自分がどんなことを大事して生きていきたいかを考える機会となる。

・級友の夢や目標、志、考え方などを聞く貴重な場となる。

・校外の様々な経験を積まれている方々のお話を聞くことができる。

【課題】

・２年生は、「職業体験学習」と「立春式」という２つの学年中心の行事があるため、総合的な学習の時間が他学年よりも必要となる。

・学年全員が作文を書き、学級で発表会をするが、自分の考えを作文にするので、作文の作成に指導の労力と時間を要する。

全学年「特別授業」

（１）目的

保護者や地域の教育力を学校教育に生かす。
大人の歩んできた半生を、進路選択に生かす
保護者との良好な人間関係の和を広げる。

（２）場所　桜台中学校　各教室

（３）内容

演題　講師による特別授業
時間　３０分×２コマ　（生徒の入れ替え）
講座数　１０講座以上を予定

＜昨年度の授業＞

◆スポーツ史上最強は誰だ？！ 昔の選手と現在の選手は直接戦うことは出来ないが，もし戦ったら一体誰が強いのか？リオオリンピックで活躍した選手なども織り交ぜながら，たくさんのスポーツの史上最強選手を決定する講義でした。
◆そうだスイスに行こう！ スイスが大好きな私が，スイスの大自然や食べ物，鉄道などワクワクするようなスイスの魅力をたっぷり紹介します。この講義を受けた生徒はみんなスイスに行きたくなること間違いなし！！
◆Can’t Stop the Feeling ／ Shake it off 最近流行った＆耳なじみのある英語の歌が気持ちよく歌えるように，英語ならではのリズムや発音を感じながら練習しました。
◆「いろいろな人がいるのはいい」はほんとうにほんとうか？ 多様性がもたらす「いいこと」と「だからといって何もかもが許されるわけではない」ということ。それを考えてどんな世界をつくっていくかは君たちの問題である。
◆鉄道と私 奇しくも，前日の１０月１４日は初めて鉄道が走った日です。北総線の歴史や「出発進行」の意味など知る人ぞ知る貴重なお話でした。
◆旅行のススメPART7 外国旅行で困らないためには，その国の方と仲良くする方法など，実体験を活かした旅行のススメです。２０歳までには海外旅行に出かけよう！
◆昔話を楽しむ～日本の昔話とわらべうた～ 昔話のはじまりと終わりに言葉があることなど，昔話の特徴などの説明や３つの昔話を迫力満点で紹介してくださいました。
◆桜台周辺の歴史と文化財 桜台で見つかった遺跡から見た歴史と近辺で見ることができる文化財を紹介してくださいました。意外に多くて子どもたちが身近に感じることができました。
◆環境と緑 環境の大切さは誰もが知っています。誰もが知りながら環境はどんどん悪化し，緑は失われています。もう一度，環境と緑の大切さについて考えてほしいと思います。
◆建築という仕事 建物の構造の種類や建物の耐震などについていろいろと教えてくださいました。模型や実験を交えた楽しい講義でした。
◆スカイツリーには〇〇がいっぱい！？　～力をデザインする～ 心柱や杭にデコボコの節を使ったり，三角形の強度を活かしたりと，実験を通してスカイツリーの構造を検証しました。まさに力をデザインするです。
◆何かを応援するということ 高校，大学での応援団での経験を踏まえ，押忍の精神と技を伝授し，何かを本気で応援することの素晴らしさを伝えていただきました。
◆１０年後の社会と職業を想像する 10年後，20年後のみなさんの仕事（職業）を想像する。 技術の進歩は良いことばかりではない？目指す仕事がなくなっているかもしれない・・これからの変化の時代に必要になる「問題解決」の能力とその考え方のコツを 知り，ゲーム業界の事例でみんなで考えてみました。

（3）成果と課題

【成果】

キャリア教育の一環として，子どもたちが将来や生き方を考える良い学びの機会となった。

保護者や地域の方の学校の教育活動への参画意識が高まった。

学校公開，授業参観の中に組み込んだため，保護者への共通の話題になった。

毎年同じ先生の講座をとる生徒がいて，講師の先生がそうした生徒への対応もしてくれる。

【課題】

・講師の確保が難しい。特に毎年お願いしている方だけでなく，現役の保護者の方を増やしていく必要がある。

・講座ごとの学びを全校でシェアリングできる場があるとよい。現状は掲示物のみ。

平成３０年８月２２日

第６８次　印旛地区教育研究集会

進路指導部提案資料

成田市立遠山中学校
井上　義之

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1．研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2．主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

3．研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

4．本校の実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

5．生徒の実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

6．総合的な学習の時間におけるキャリア教育の内容・・・5

7．本校の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

8．まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

資料

日本語指導が必要外国籍児童生徒数・・・・・・・・・・・・7・8

生活保護世帯の大学等への進学支援について・・・・・・・・9・10

はじめに

２０２０年、東京でオリンピック・パラリンピックが開催される。またこの年は新学習指導要領が小学校で完全実施される。新学習指導要領はその後の１０年、２０年の教育を見据えたものである。またオリンピックを契機に日本は大きく変容すると考えられる。少子高齢化は更に進み、日本経済はさらに成長を続けるであろうが、格差や貧困の問題も深刻化していく。労働人口を確保するために、多くの外国人労働者を受け入れることになるであろう。

このような世の中の移り変わりの中では、学校が今まで以上に様々なニーズに応えなければならない状況が発生するのは必定である。本校はすでに数年前からこれらの問題に直面している（詳細は実態のところで述べるが）。今回はこれから日本中で起こりえる状況の一例として本提案を捉えていただきたい。

１．　研究主題

様々な支援を必要とする生徒が多数在籍する中学校における進路指導のあり方はいかにあるべきか。

２．　主題設定の理由

本校の教育上の最大の課題は学力向上である。実力テストでは県平均を約５０点下回ることがある。当然全国学力状況調査の結果も全ての項目で平均値に達することはない。研究主任を中心に学力向上委員会を組織して全校をあげて指導力の向上に取り組んでいるが、生徒の結果には表れない状況である。また学習委員会等の活動で授業規律等の確立も図っている。実際、授業自体は落ち着いた雰囲気で進められている。ただ、新指導要領に掲げられた「主体的対話的で深い学び」の実現には多くの課題があるというのがっげんじょうである。

そんな本校でも当然進路指導があり、学年ごとに計画的に進められている。しかし、３年次の進学希望の実現には様々な課題が持ち上がる。以下に記す本校の実態を元に、これからの進路指導のあり方の一考察となればと思い本主題を設定した。

３．　研究仮説

地域の特性や保護者の状況を把握しながら、進路指導を進めることでより良い進路希望の実現を図れるであろう。

４．　本校の実態（地理・歴史）

本校の学区はは成田市の南東部に位置しており富里市や芝山町に隣接している。学区はとても広く９㎞先から登校している生徒も見られた。学校の周囲には畑が広がり、根木名川に近い地域では田園風景が見られる。そして学区最大の特徴は「成田空港」の存在であろう。

歴史的には御料牧場を中心として生活してきた三里塚地区と農村としての遠山・東小学区があった。元々は特に大きな産業もなく農業従事者がほとんどであった。勤めるとしても成田山を中心とした地域へ出るのが精一杯であった。

昭和４０年代、「新東京国際空港構想」のもと、地域が大きく変わり始めた。空港反対運動が激化する中、建設は着実の進められた。そのころから生徒の転出入が少しずつ始まった。昨日まで草原や山だったところに巨大空港ができ、普通に遊んでいた友人が突然いなくなるということが時々あった。京成の線路が空港まで延長され、東関道ができた。

空港建設に伴い、交通事情が悪化したため、スクールバスが走った時期もある。学区の校舎は防音校舎に建て替えられた。

空港開港後は保護者の職業も大きく様変わりした。当然空港関係者が増えた。周辺のホテル関係者や地域の発展に伴い様々な職種が増えた。ほとんどが地元民だったものが、他地域からの流入も増加した。空港は多くの就業の場を与えた。外国人も増えた。

実際成田市自体が住みやすい町（手厚い保護）である。、しかし空港周辺は決して利便性の良い土地とはいえない。その結果、安く住める住宅が多い。また、作業労働の機会も多く、仕事が見つけやすい。賃貸住宅はさらに増加している。最近は安価な戸建て住宅も増えている。

地域の教育力は高いとは言えない。いわゆる「スクールウォーズの時代」に生徒だった方々が、保護者になっている状況もある。高齢者の方々も決して教育の対する関心は高いとは言えないようである。実際そんなにあくせくしなくても、生活できてしまう地域だと思われる。親子孫、三代に渡って本校出身という家庭も多い。学校行事には協力的でいわゆる「人が良い」方々が多いのではないか。

５．　生徒の実態

片親家庭（**3年生**）

	２７年度	２８年度	２９年度
母子	３１名	２６名	１５名
父子	１名	４名	４名
計	３２名	３０名	１９名
学年	１２９名	１１８名	１１６名

外国籍の保護者

	２７年度	２８年度	２９年度
中国	4	2	
台湾	1		1

モンゴル		1	
タイ・フィリピン	4	8	7
ネパール	1		
メキシコ	1		
コロンビア	1		
ペルー	5	2	4
ボリビア	1		1
合計	１８名	１３名	１３名

長欠および保護家庭

	２７年度	２８年度	２９年度
長欠 ３年　１５日以上 内１００日以上	 １５名 ８名	 １３名 ３名	 １４名 ５名
全校　１５日以上 内１００日以上	４６名 １８名	２９名 ７名	３４名 ８名
保護家庭 ３年 全校	 １６名 ４８名	 １８名 ４６名	 １４名 ４３名
全校生徒数	３６３名	３６４名	３６３名

過去３年間の進路状況

	２７年度	２８年度	２９年度
千葉県立成田西陵高等学校	9	１２	4
千葉県立成田国際高等学校	4	6	2
千葉県立成田北高等学校	１１	１１	7
千葉県立富里高等学校	２４	１５	２７

千葉県立佐倉高等学校	4		2
千葉県立佐倉東高等学校	2	2	3
千葉県立佐倉西高校	2		
千葉県立佐倉南高等学校	5	3	1
千葉県立下総高等学校	１１	6	7
千葉県立印旛明誠高等学校		3	1
千葉県立佐原高等学校	4	1	1
千葉県立佐原白楊高等学校	2	1	5
千葉県立多古高等学校	3	4	2
千葉県立匝瑳高等学校	4	2	4
千葉県立四街道高等学校		1	2
千葉県立四街道北高等学校		1	
千葉県立千葉高等学校		2	1
千葉県立千葉商業高校		1	
千葉県立千葉工業高校		1	
千葉県立若松高校		1	
千葉県立泉高校		1	
千葉県立八千代高等学校		1	1
千葉県立船橋法典高校		1	
千葉県立八街高校			3
千葉県立我孫子東高校	1		3
習志野市立習志野高校	1		1
千葉県立栄特別支援学校		1	1
千葉県立富里特別支援学校	6	2	2
千葉県立湖北特別支援学校	1		
千葉県立佐倉東高等学校（定時）		3	1
成田高等学校	4	1	1
東京学館高等学校	8	１０	6
千葉黎明高等学校	1	1	3
愛国学園大学附属四街道高等学校	5	3	3
千葉敬愛高等学校		4	2
秀明八千代高等学校	1	2	2
八千代松陰高等学校		1	3
千葉英和高等学校		3	1
植草学園大学附属高等学校			1
千葉経済大学附属高校	2		
千葉萌陽高校	1		
千葉学芸高校	1		
横芝敬愛高校		1	
二松學舍大学附属柏高等学校			1

東京学館船橋高等学校			1
国府台女子学院	1		
早稲田実業高等学校		1	
千葉県立千葉大宮高校			1
なりた翔洋学園高等部	4	3	2
明星高等学校	1		
わせがく高等学校	1		
あずさ第一高等学校	1	1	
飛鳥未来高等学校	1		
鹿島学園高等学校		1	
中央自動車大学校		1	
渡邉高等学院	1		
立志社高等学校		1	
ＮＨＫ学園高等学校		1	
就職・その他	2		
私立第１希望	２７	２６	２０
公立のみ受験	５３	２５	３４

６．　総合的な学習の時間におけるキャリア教育の内容

１年

将来の（希望）夢

職業調べ

２年

接遇（マナー）講座

職場体験学習

高校調べ

３年

進路説明会

高校１日体験入学・高校説明会

７．　本校の取り組み

進路指導に関しては「総合的な学習の時間におけるキャリア教育の内容」で挙げたような内容で進められている。

様々な支援については以下のような取り組みが行われている。

①日本語取り出し授業　スペイン語　中国語　シンハラ語

年度によって変わるが言語は変わるが、外国籍に生徒に対して、市から日本語指導の職員を派遣してもらっている。

②定期テスト「かなふり問題」作成

日本語の理解が厳しい外国籍の生徒に対して、定期テストの際に日本語のふりがなをつけた問題を配付している。

③家庭配付文書翻訳付け

「保護者会のお知らせ」や「進路希望調査」等の配付文章に、母国語訳をつけたものを配付している。

④面談時の日本語指導職員の同席

保護者面談や三者面談の際に、日本語指導教員の同席を依頼して通訳を頼むことがある。

⑤特別支援学級からの交流授業・特別支援学級への交流授業

本人や保護者の要請に応じて実施している。過去には情緒学級の生徒が５教科すべて通常学級で受けていたこともある。本年度も音楽や体育の交流が見られる。逆に数学や英語の授業で特別支援学級へ通級する生徒も見られる。

８．　まとめ

始めに記したが、本校の最大の目標および課題は学力向上である。学級担任は毎日家庭学習を励行し、丁寧に点検活動を行っている。授業に関しても研究主任を中心に学力向上推進委員会を設定して改善に取り組んでいる。しかし、全国学力状況調査等の結果は確実に平均を下回っている。さらに経済的にも進路選択の幅が狭い生徒が多数存在する。外国籍の生徒も多く見られる。そんな中でも毎年確実に進路指導が行われ、ほとんどの生徒は進学を希望している。

実際、学力的に厳しく、経時的にも余裕がない。また地理的にも電車の駅から遠い。そんな状況でもほぼ希望者全員が進学をしている。

最近の傾向では特別支援学級から、サポート校や公立高校の進学希望が増えている。そして実際進学している。

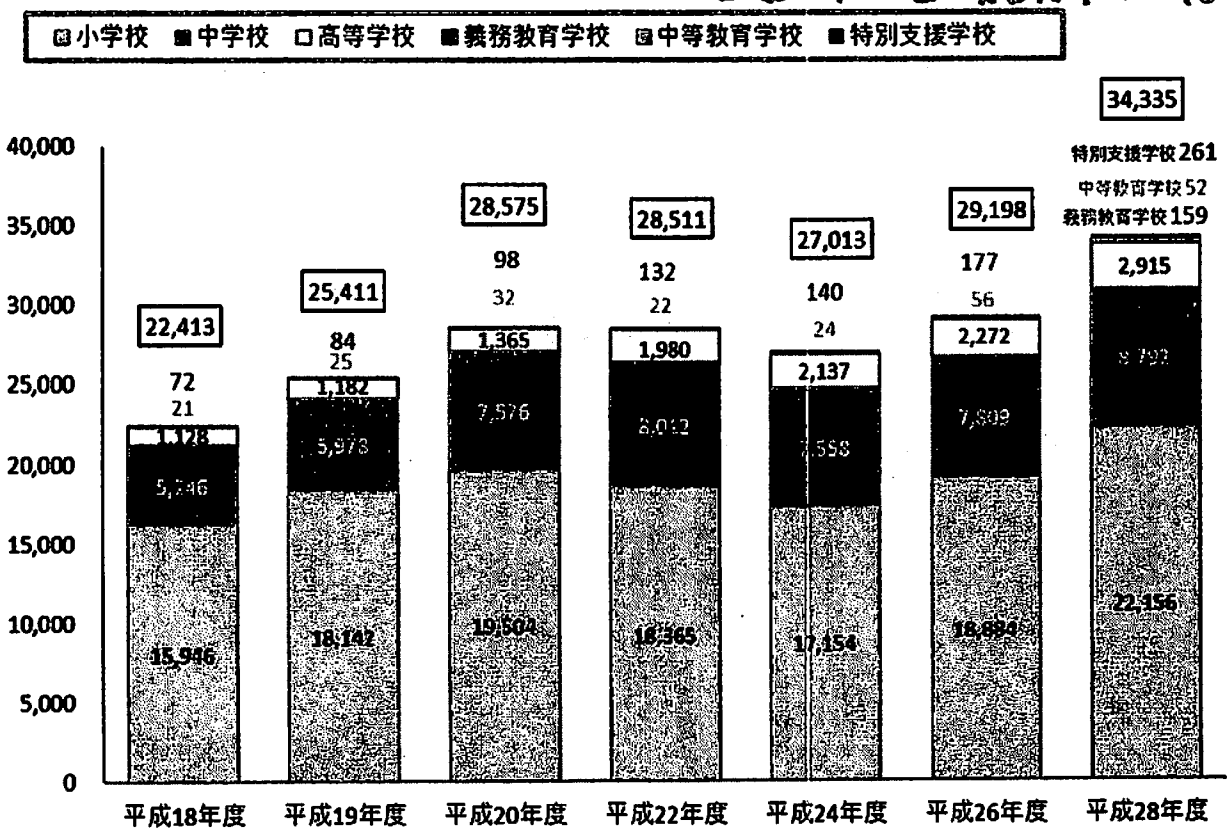
外国籍の生徒は一概に学習状況が厳しいとは言えない。日本語指導もさることながら、本人の弛まぬ努力で進路希望を実現している。

進学先は生徒の実態にあるように公立がほとんどである。また、交通機関を使わないで通える学校に対する希望が強い。

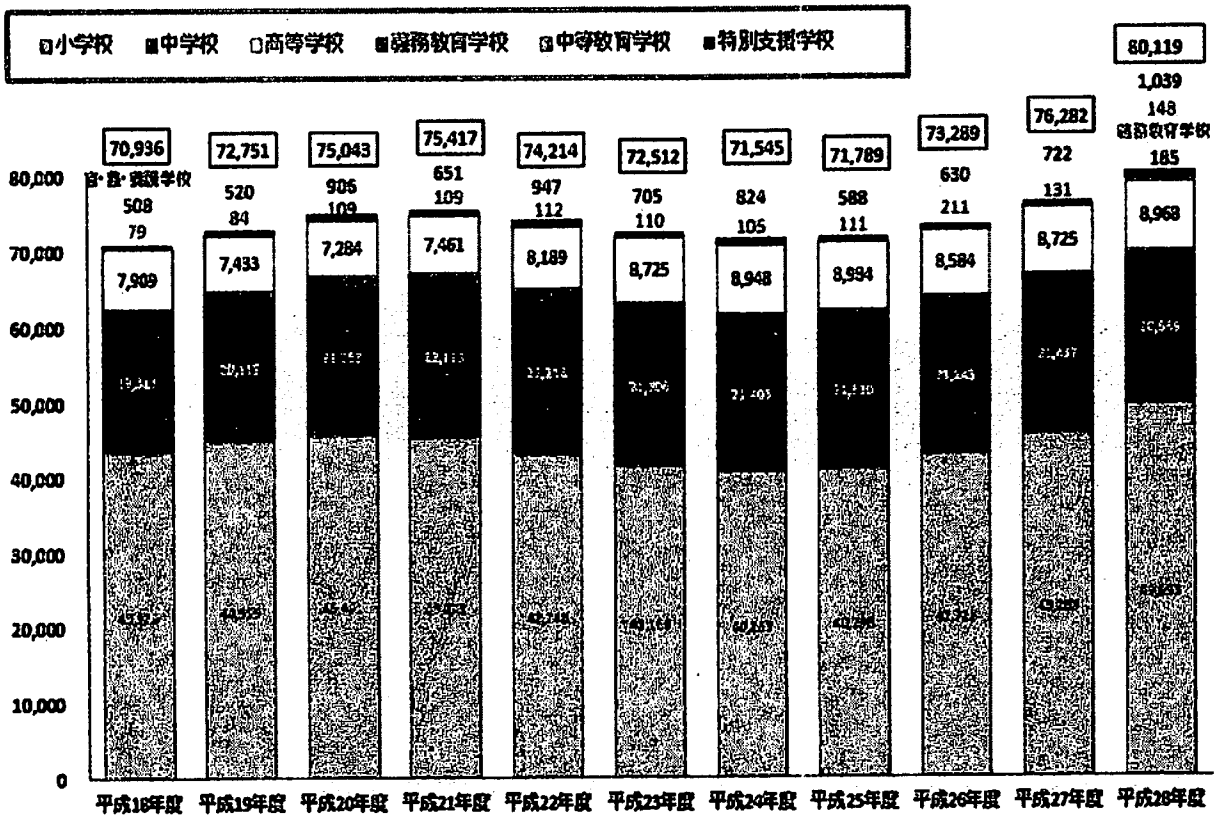
様々な支援が必要な生徒が多数存在する本校だが、進路希望を何とか実現している現状である。

資料　文科省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査（21年度）」の結果について より

図１　日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数



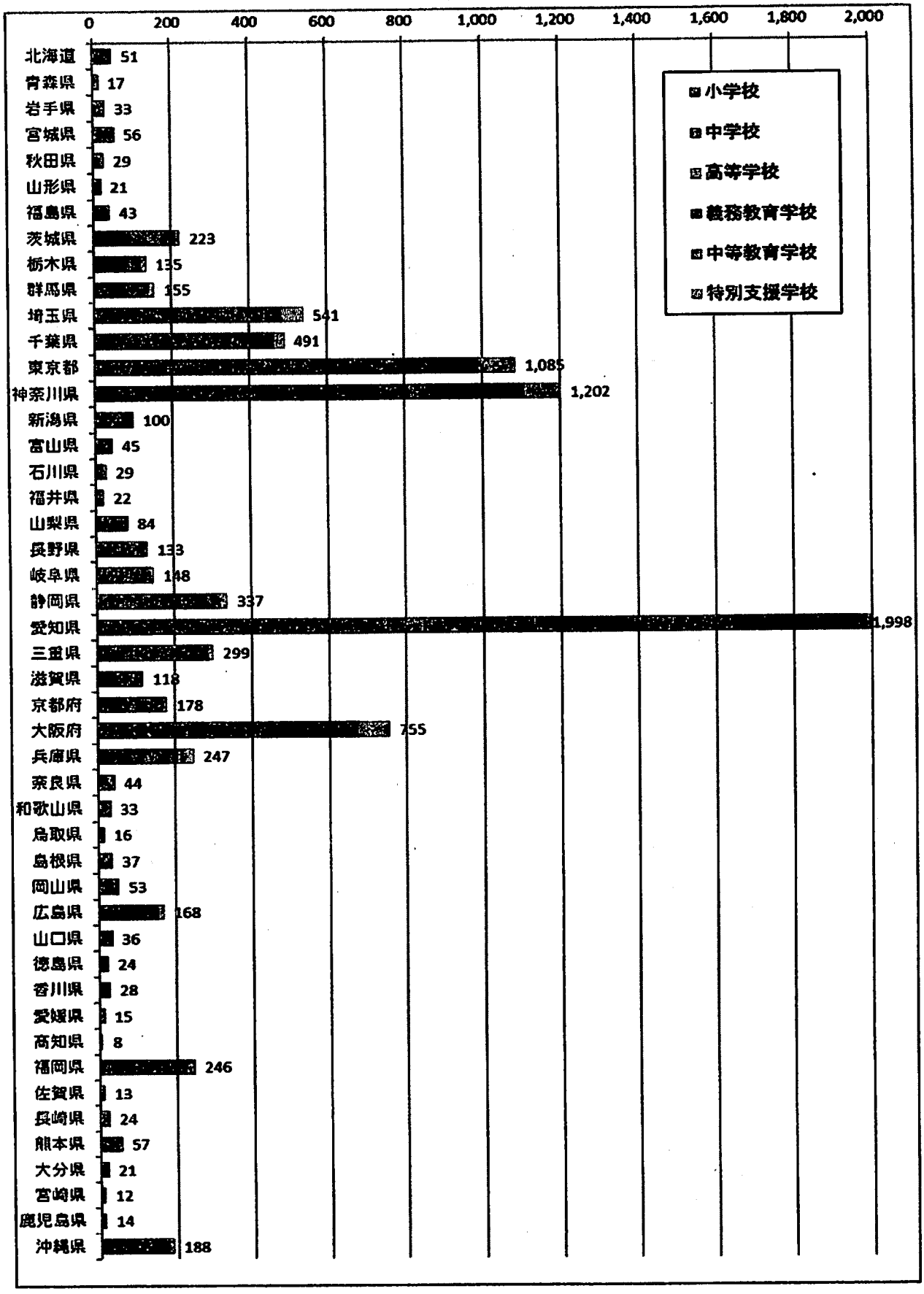
（参考）公立学校に在籍している外国籍の児童生徒数　（出典：文部科学省「学校基本調査」）



（各年５月１日現在）

②－２　日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）

（児童・生徒数：人）



生活保護世帯の子どもの大学等への進学支援について

対応案

厚労省「生活保護制度の現状について」より

平成30年度予算(案):17億円

[redacted]

生活保護受給世帯の子どもが大学等に進学した際に、新生活の立ち上げ費用として一時金を給付する。【法律】
・自宅通学:10万円　・自宅外通学:30万円

[redacted]

生活保護世帯の子どもが出身元の生活保護受給世帯と同居しつつ大学等に進学する場合に、子どもが生活保護受給世帯の世帯員から外れることに伴う出身世帯の住宅扶助費の減額をしないこととする。【通知】

対象となる教育機関

・大学　・短大　・専修学校(専門課程)　・その他各種学校等で、就学が世帯の自立助長に効果的と実施機関が認める教育機関
※　現在世帯分離を認めている教育機関とする方向で検討

対象者

① 進学準備給付金(仮称)
生活保護受給世帯の子どものうち、当該年度の前年度の3月に高等学校等を卒業し、原則当該年度の4月に大学等に進学するため生活保護受給世帯から脱却することとなるもの
※出身元の生活保護受給世帯から転居せず、引き続き同居して進学する者も含む。

② 大学等就学中に住宅扶助額を減額しない措置
大学等に進学し、出身元の生活保護世帯と同居しつつ、通学する者が属する世帯
※平成30年3月以前に進学した者がいる世帯を含む

制度の開始時期

① 進学準備給付金(仮称)
未定(通常国会への提出を検討している生活保護法の改正法案に盛り込む予定)
※平成30年3月に高等学校等を卒業し、翌4月から大学等へ進学する者に対しても遡及して支給する方向で検討中。

② 大学等就学中に住宅扶助額を減額しない措置
平成30年4月(関係通知を改正予定)

生活保護基準の見直し案

■ 一般低所得世帯の消費実態（年齢、世帯人員、居住地域別）との均衡を図り、**生活扶助基準の見直し（増減額）を行う。**

※ 夫婦子1人世帯（モデル世帯）の基準額は、一般低所得世帯の消費水準と均衡。年齢・世帯人員・居住地域別にみると、それぞれの消費実態と基準額にばらつき。

※ 生活保護基準部会において「世帯への影響に十分配慮」し、「検証結果を機械的に当てはめることのないよう」と指摘されていること等を踏まえ、多人数世帯や都市部の単身高齢世帯等への減額影響が大きくならないよう、個々の世帯での生活扶助費、母子加算等の合計の減額幅を、現行基準から▲5%以内にとどめる。

※ 見直しは段階的に実施（平成30年10月、平成31年10月、平成32年10月の3段階を想定）。

■ **児童養育加算及び母子加算等について、子どもの健全育成に必要な費用等を検証し、必要な見直しを行った上で支給する。**

- **児童養育加算**

  子どもの自立助長を図る観点から、子どもの健全育成に係る費用（具体的には学校外活動費用）を加算。 支給対象を「中学生まで」から「高校生まで」に拡大

  現行：月1万円 （3歳未満等1．5万円）／中学生まで ⇒見直し後：月1万円／高校生まで

  ※ 見直しは平成30年10月に実施。ただし、3歳未満等の見直しは段階的に実施（平成30年10月、平成31年10月、平成32年10月の3段階を想定）。

- **母子加算**

  子どものいる家庭の消費実態を分析し、ひとり親世帯がふたり親世帯と同等の生活水準を保つために必要となる額を加算

  現行：母子（子ども1人）の場合 平均月約2．1万円 ⇒見直し後：平均月1．7万円

  ※ 見直しは段階的に実施（平成30年10月、平成31年10月、平成32年10月の3段階を想定）。

- **教育扶助・高等学校等就学費**

  ー クラブ活動費の実費支給化：年額61,800円（金銭給付） ⇒ 年額8.3万円（実費上限）※高校の場合
  ー 入学準備金（制服等の購入費）の増額：63,200円（実費上限） ⇒ 8.6万円（実費上限）※高校の場合
  ー 高校受験料支給回数の拡大、制服等の買い直し費用の支給

  ※ 見直しは平成30年10月に実施。